

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520321

研究課題名（和文） 医療者と患者間のコミュニケーション

研究課題名（英文） Fundamental study on medical interviews

研究代表者

高永 茂（TAKANAGA SHIGERU）

広島大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10216674

研究成果の概要：医療面接について社会言語学的・語用論的な分析を行なった結果、相互行為空間の形成の仕方や発話内容の修復などが明らかになった。言語学の分野から社会言語学とポライトネス理論、発話行為論の知見を導入し、歯科医と SP（模擬患者）の意見を総合しながらコミュニケーションモデルを構築した。2006 年度から 3 回にわたって「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催し、医療とコミュニケーションに関わる各々の研究者が研究成果を持ち寄って知識と経験を共有することができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	660,000	3,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：医療コミュニケーション、言語学、医歯薬学

## 1. 研究開始当初の背景

医学・歯学の学士課程教育では、対人コミュニケーション能力の開発を主体とするトレーニングや態度教育が他の専門領域に比べてすすみつつあるが、それぞれの教育機関によって医療コミュニケーションならびに態度の教育内容や教育手法、そして求められる学習成果のレベルはさまざまであり、水準化にはほど遠い。そこで、患者本位の医療を実践できる人材を育成していくために、学士課程から卒後研修への一貫した医療コミュニケーションや態度教育カリキュラムの構

築を目指し、日常のコミュニケーションと同じ土台に立脚した医療コミュニケーション分野の研究を進めていく必要がある。医療コミュニケーションのメカニズムを解明することは、言語研究に資するだけでなく、より良い医療環境の実現と医学・歯学教育の分野に寄与することが期待されている。

## 2. 研究の目的

本研究では、言語学と歯学・医学が協働することによってコミュニケーション研究の新たな分野を開拓するとともに、医療教育の

場と医療現場にその成果を還元していくことを目的とする。本研究の柱となっているのは、次の3つの課題である。

- (1) OSCEの診療場面を分析すること
- (2) 歯学・医学教育カリキュラムを再検討すること
- (3) 医療コミュニケーション教育研究セミナーを開催し、学術的交流を行うこと

### 3. 研究の方法

- (1) 臨床場面のデータを収集する。

研修歯科医を対象にして、模擬患者(SP: 専門的な訓練を受けて一般の患者と同じように振る舞うことのできる人)を相手に行われる診療場面を記録する。記録する際には、3台のビデオカメラを設置する。それぞれのビデオカメラを用いて、

- ① 医師側の発話と行動
- ② 患者側の発話と行動
- ③ 医師と患者の相互行為

を記録する。

- (2) データを解析する。

収集されたデータを次のように解析する。

- ① 語用論と談話分析の観点から「言語的特徴」を解析。
- ② 音声学の観点から「副言語的特徴」を解析。
- ③ 行動科学の観点から「非言語的特徴」を解析。

(3) 診療コミュニケーションモデルを構築する。

(4) 「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催し、研究成果を公表するとともに、研究者どうしの学術的な交流を図る。

### 4. 研究成果

(1) 医療面接の社会言語学的・語用論的な分析を行なった結果、相互行為空間の形成の仕方や発話内容の修復方法などが明らかになった。

(2) 言語学の分野から、社会言語学とポライトネス理論、発話行為論の知見を導入し、臨床歯科医と模擬患者の意見を総合しながらコミュニケーションモデルを構築した。

(3) コミュニケーションモデルを基礎にした教授法を実践した。広島大学歯学部で開講されている授業において、小川、高永、田口、田中が、本研究の知見を活用しながら授業内容を構成し実践した。

(4) 2006年度から3回にわたって「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催した。

研究によって得られた貴重な成果も、臨床や教育の現場で役立つなければその価値は半減してしまう。医療とコミュニケーション

に関わる各々の研究者が研究成果を持ち寄って知識と経験を共有し合う場を築けたことが、本研究の重要な成果である。

各回の医療コミュニケーション教育研究セミナーの概要を以下にまとめてみよう。

① 第1回医療コミュニケーション教育研究セミナー

開催日：2007年2月15日(木)

開催場所：広仁会館(広島大学霞キャンパス)

テーマ：「医療者に必要なコミュニケーション教育とその研究の方向性を探る」  
—医療倫理と教育プログラム、教育技法、そして研究のあり方と動向—

形式：ワークショップ、講演、研究発表

② 第2回医療コミュニケーション教育研究セミナー

開催日：2007年12月15日(土)・16日(日)

開催場所：広島大学医学部基礎・社会医学棟2Fセミナー室1、チュートリアル室1、2(広島大学霞キャンパス)

テーマ：「コミュニケーションの中の医療コミュニケーション」

形式：教育講演、研究発表

※「第10回日本コミュニケーション学会(CAJ)中国四国支部大会」と共同開催。

③ 第3回医療コミュニケーション教育研究セミナー

開催日：2008年11月29日(土)・30日(日)

開催場所：広島大学医学部基礎・社会医学棟(広島大学霞キャンパス)

テーマ：「医療コミュニケーションと歯学教育」

形式：模擬患者(SP)セッション、教育講演、研究発表

※「第11回日本コミュニケーション学会(CAJ)中国四国支部大会」と共同開催。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

① 高永茂(2009)「医療面接場面に見られる敬語使用の特徴——OSCEの医療面接データを分析して——」、『ニダバ』Vol.38、39-48、査読有り

② TAKANAGA Shigeru. 2008 “Characteristic Use of Honorifics in Medical Interviews: With Special Reference to the Data Analysis of OSCE”, *Hiroshima Interdisciplinary Studies in the Humanities*, Vol. 7, 1-8、査読有り

③ 高永茂(2008)「相互行為空間における参与フレームの形成と維持——医療面接の場面を中心にして——」、『ニダバ』Vol. 37、1-10、査読有り

④小川哲次 (2008) 「コーチング」、伊藤孝訓・寺中敏夫共編著『患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際』東京：クインテッセンス出版、46-50、査読無し

⑤小川哲次、吉田登志子、緒方哲朗、鈴木一吉、大石美佳、千葉逸朗、田口則宏、伊藤孝訓、堀陽香 (2008) 「これからの医療コミュニケーション教育の目標設定とカリキュラムストラクチャー」、『日本歯科医学教育学会雑誌』24、261-266、査読有り

⑥Taguchi N., Ogawa T. and Sasahara H. 2008 “Japanese Dental Trainees Perceptions of Educational Environment Measurement in Postgraduate Training”, *Medical Teacher* 30, e189-e193、査読有り

⑦田口則宏 (2008) 「海外の医学・歯学教育関連会議参加報告 欧州医学教育学会年次総会」、『日本歯科医学教育学会雑誌』24、102-103、査読有り

⑧田口則宏、小川哲次、田中良治、小原勝、笹原妃佐子 (2008) 「キャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム評価」、『日本歯科医学教育学会雑誌』24、182 - 189、査読有り

⑨田口則宏 (2008) 「これからの医療コミュニケーション教育の目標設定とカリキュラムストラクチャー・カリキュラムストラクチャーのあり方」、『日本歯科医学教育学会雑誌』24、263-264、査読有り

⑩田口則宏 (2008) 「各論編」・「デンタルインタビューの実際」、伊藤孝訓・寺中敏夫共編著『患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際』東京：クインテッセンス出版、80-87、164-167、査読無し

⑪田口則宏 (2007) 「歯科医師臨床研修における新たな教育環境評価法の可能性」、『日本歯科医学教育学会雑誌』23、154-161、査読有り

〔学会発表〕 (計 19 件)

①小川哲次、田口則宏、田中良治、小原勝「コミュニケーション教育と学習スタイル」、第 11 回日本コミュニケーション学会中国四国支部会・第 3 回医療コミュニケーション教育研究セミナー (2008 年 11 月 30 日広島大学歯学部)

②本山智得、森本克廣、土江健也、川原正照、熊谷宏、中本雅志、山崎徹、山本智之、荒谷

恭史、三戸敦史、久保康治、瓜生賢、島末一則、光山武文、山崎保彦、中村隆一、岸民祐、妹尾博文、小川哲次、田口則宏、三島幸司、鎌田伸之、高田隆「歯科医師臨床研修プログラムについて—臨床研修施設と臨床研修医の意識調査—」、第 47 回広島県歯科医学会・第 92 回広島大学歯学会・日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (2008 年 10 月 19 日広島県歯科医師会館)

③佐々木友枝、前田純子、田口則宏、小川哲次「模擬患者 (SP) 活動における満足度調査」、第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (2008 年 7 月 11 日江戸川区総合文化センター)

④竹本俊伸、小川哲次、影山幾男、田口則宏、仁井谷善恵、松本厚枝、原久美子、野宗万喜、杉山勝、天野秀昭、里田隆博「口腔保健学科 (口腔健康科学分野) の卒前教育における「歯科臨床教育学」のカリキュラムデザイン」、第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (2008 年 7 月 11 日江戸川区総合文化センター)

⑤田口則宏、小川哲次、田中良治、笹原妃佐子、小原勝、岡田貢「キャリアデザインからみた必修化後の歯科医師臨床研修におけるアウトカム調査」、第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (2008 年 7 月 11 日江戸川区総合文化センター)

⑥小川哲次、田口則宏、田中良治、小原勝、佐々木友枝「臨床研修歯科医のための医療面接トレーニングについて」、第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (2008 年 7 月 11 日江戸川区総合文化センター)

⑦小川哲次、田口則宏、田中良治、小原勝、佐々木友枝「学習スタイル Learning Style と自己主導型学習 Self-Directed Learning」、第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (2008 年 7 月 11 日江戸川区総合文化センター)

⑧小川哲次、岡亮太、片山荘太郎、片山巖、入船正浩、河原道夫「一般歯科診療所における術中モニタリングの現状と課題～開業医の歯科麻酔会認定医、専門医に対するアンケート調査から～」、第 46 回広島県歯科医学会・第 91 回広島大学歯学会 (2007 年 10 月 21 日広島県歯科医師会館 6F)

⑨高永茂「医療面接における相互行為空間の形成について」、西日本言語学会 (2007 年 9 月 15 日九州産業大学)

⑩ 田中良治、小川哲次、田口則宏、小原勝、岡田貢「臨床初期研修における自己主導型学習支援のための Web Course Tool(WebCT)」、第 26 回日本歯科医学教育学会 (2007 年 7 月 7 日長良川国際会議場 4F 大会議室)

⑪ 田口則宏、小川哲次、田中良治、笹原妃佐子、小原勝、岡田貢「キャリアデザインからみた臨床研修のアウトカム調査」、第 26 回日本歯科医学教育学会 (2007 年 7 月 6 日長良川国際会議場 1F メインホール)

⑫ 笹原妃佐子、田口則宏、小川哲次、田中良治、小原勝、岡田貢「必修化の点検評価 PHEEM(Postgraduate Hospital Educational Environmental Measure)」、第 26 回日本歯科医学教育学会 (2007 年 7 月 6 日 長良川国際会議場 4F 大会議室)

⑬ 小川哲次、田口則宏、田中良治、小原勝、岡田貢「卒前における包括的総合歯科教育について」、第 26 回日本歯科医学教育学会 (2007 年 7 月 6 日長良川国際会議場 5F 国際会議室)

⑭ 小川哲次、田口則宏、田中良治ほか「歯学教育における卒前から卒業までの医療コミュニケーション教育と評価法」、日本歯科医学教育学会歯学教育シンポジウム「歯学教育におけるコミュニケーション教育」(2006 年 12 月 2 日東京)

⑮ 田口則宏「スタートした卒業後歯科臨床研修」、広島大学歯学部第一口腔外科同門会 (2006 年 9 月 9 日広島)

⑯ 田口則宏、小川哲次、田中良治ほか「Portfolio: 臨床初期研修における自己主導型学習と評価」、第 25 回日本歯科医学教育学会 (2006 年 6 月 17 日仙台)

⑰ 小川哲次、田口則宏、田中良治ほか「臨床初期研修における自己主導型学習について」、第 25 回日本歯科医学教育学会 (2006 年 6 月 17 日仙台)

⑱ 小川哲次、田口則宏、田中良治ほか「臨床初期研修の評価法としての Advanced OSCE」、第 25 回日本歯科医学教育学会 (2006 年 6 月 17 日仙台)

⑲ 田口則宏、小川哲次、田中良治ほか「PHEEM (Postgraduate Hospital Educational Environment Measure)の有用性」、第 25 回日本歯科医学教育学会 (2006 年 6 月 16 日仙台)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高永 茂 (TAKANAGA SHIGERU)  
広島大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号: 10216674

### (2) 研究分担者

小川 哲次 (OGAWA TETSUJI)  
広島大学・病院・教授  
研究者番号: 50112206

田口 則宏 (TAGUCHI NORIHIRO)  
広島大学・病院・講師  
研究者番号: 30325196

田中 良治 (TANAKA RYOJI)  
広島大学・病院・助教  
研究者番号: 50304431